

第1章

平成12年鳥取県西部地震の概要

第1章 平成12年鳥取県西部地震の概要

1 震度等

鳥取県西部地震は、日野町、境港市で震度6強を観測したのをはじめ、中国・四国・近畿地方の広い範囲でも揺れが感じられました。

鳥取県内でのマグニチュード7以上の地震は、昭和18年以来であり、鳥取県西部を震源とする地震は、平成9年のマグニチュード5.1の地震以来のことでした。

(1) 発生時刻及び震源地

平成12年10月6日 午後1時30分

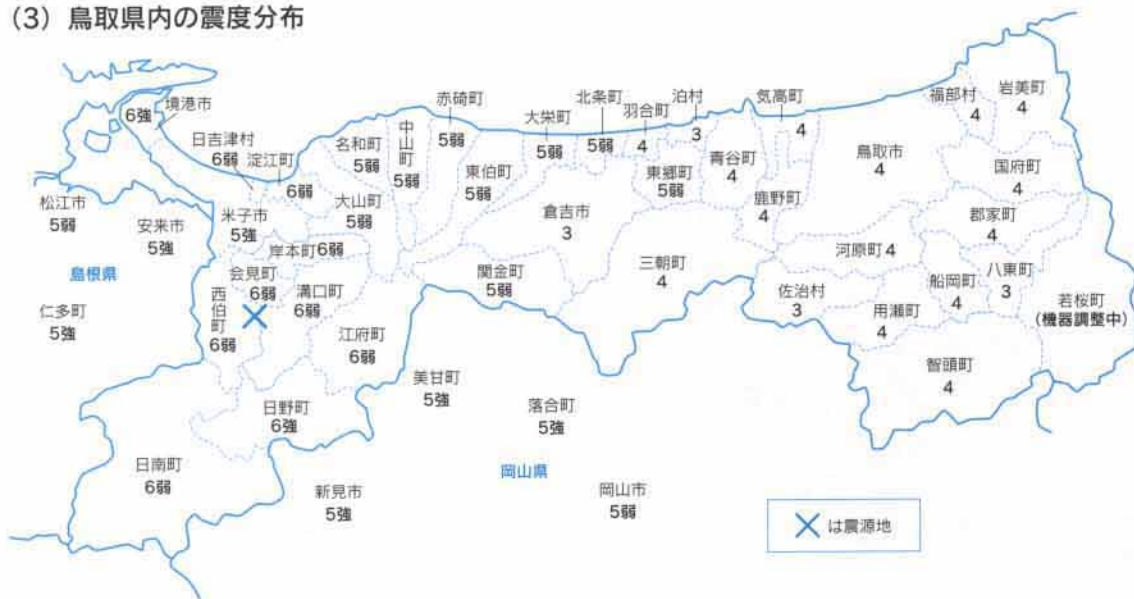
鳥取県西伯郡西伯町～日野郡溝口町付近（北緯35.3° 東経133.4°）

(2) 規模

マグニチュード 7.3

最大震度6強（境港市・日野郡日野町）

(3) 鳥取県内の震度分布



(4) 余震回数

地震発生から平成13年3月31日までの間に、有感（震度1以上）の余震は1,129回を数えました。

（単位：回数）

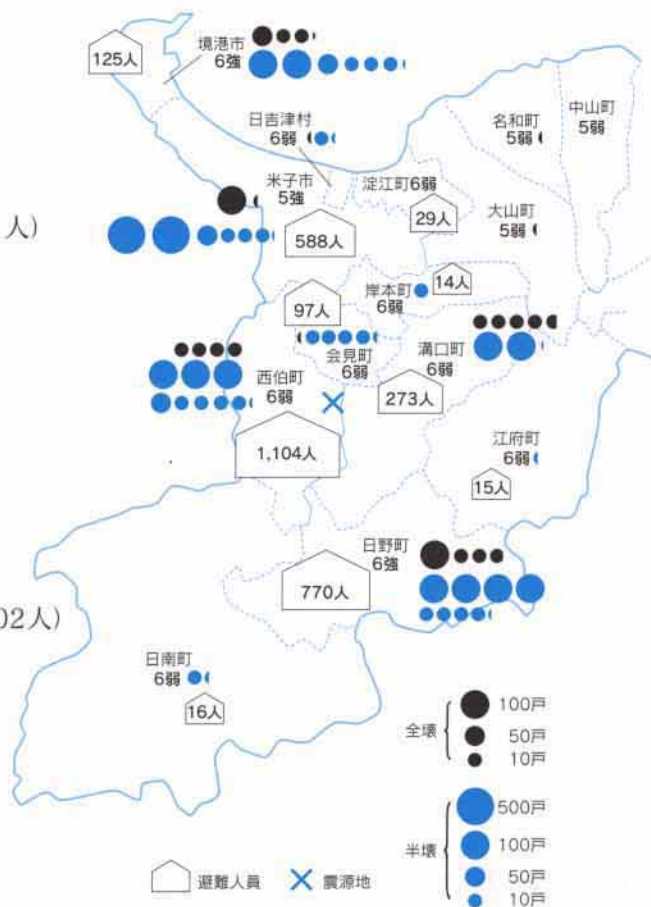
区分	最大震度別回数（有感）								合計
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	
回数	712	304	98	13	2	—	—	—	1,129

(5) 被害の状況 (平成13年8月31日現在)

- 負傷者
141人 (重傷31人、軽傷110人)
- 住民の避難
1日当たり避難人員最大値 2,703人
(各市町村の避難人員最大値計 3,031人)
- 住家の損壊
全壊 392戸
半壊 2,482戸
一部破損 13,561戸

(6) 救援活動 (のべ人員)

- 自衛隊 1,546人
- 消防署員・消防団員 3,908人
(消防署員 1,406人、消防団員 2,502人)
- ボランティア (平成13年1月7日現在)
5,351人
(うち県外者 1,900人)



2 平成12年鳥取県西部地震の特徴について

(1) 震度分布

震度6強	日野、境港
6弱	西伯、溝口
5強	米子、新見、岡山哲多、落合、美甘、香川土庄
5弱	松江、東郷、岡山、玉野、福山、徳島、観音寺、兵庫津名
4	鳥取、出雲、倉敷、広島、高松、松山、高知、大阪、神戸

(2) 震度の特徴

- ① 山間部の日野町と沿岸部の境港で「震度6強」が記録されている。
- ② 震度の大きな地域が震源の南側 (岡山県から四国まで) に広がっている。
- ③ 松江、鳥取、出雲などは、震源までの距離が近いが、比較的震度が小さい。

(3) 被害の特徴

被害は震度6の地域に集中しています。マグニチュード7.3の地震にしては、死者もなく、火災も発生しなかったなど被害が少なくなっています。これは、発生時刻が午後1時30分とおおむね昼食後であったことや、震源及び激震域が山間部で住宅が密集していなかったこと、地盤が比較的良かったためと考えられます。

(4) 被害の種類

- ①家屋の倒壊、山間部での斜面崩壊、落石などの地震動による被害
- ②沿岸部での液状化現象による地盤被害
- ③都市型の被害

境港市、米子市など都市部では、港湾岸壁の崩壊、マンホールの抜き上がり、電信柱の沈下など、ライフラインの被害が随所に見られました。

(5) 本震と余震分布

本震は、西伯町の地下10キロメートルのところを震源として、震源断層が北北西-南南東の走行で、20キロメートルの長さの左横ずれ断層を示しています。

余震活動は、震源断層に沿った細長い帯状の地域に集中しています。この中で、最大余震マグニチュード5.0が北の端近くに発生しています。そして、誘発地震群が二カ所あり、割算型の分布をしています。南西の日南町-横田町ではマグニチュード5.5の地震が発生しています。

(6) これまでの地震活動

①山陰地方の歴史地震

明治以来、日本海沿岸に沿った大地震は浜田地震、北丹後地震、鳥取地震と発生して、鳥取県西部では起きていません。

②最近20年間の中地震

1983年鳥取県中部の地震 (M6.2)、1985年大山付近の地震 (M4.9) が大山山頂から数キロメートル東に発生。1991年には鳥根県東部の地震 (M5.9) が発生。1983年からの地震活動は、東から西へと移動しています。

資料 鳥取大学工学部 西田良平教授

余震活動

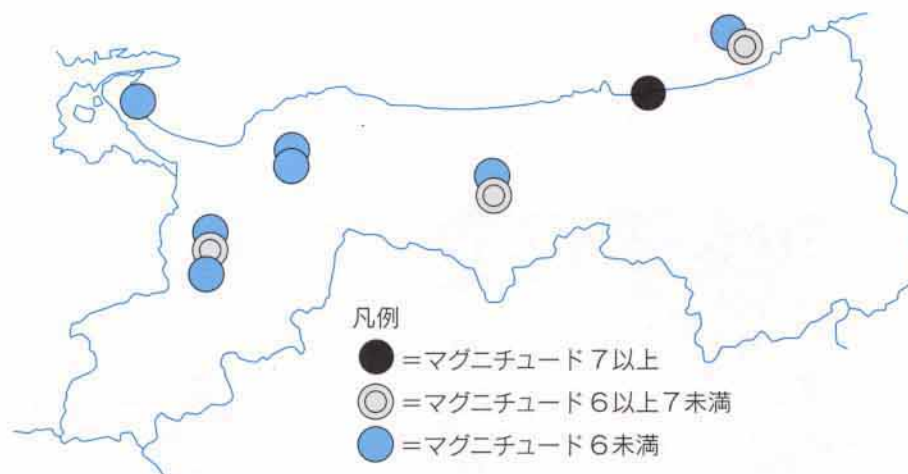


3 鳥取県内での地震の発生状況 (過去100年間)

発生年月日	場所	規模	概要
大正14年 7月 4日	美保湾	M=5.8	境・米子付近で被害が大きく、壁の亀裂、屋根瓦の落下、道路・堤防の亀裂、石垣の破損、地割や井戸の埋没が見られた。
昭和18年 3月 4日 3月 5日	鳥取沖	M=6.2 M=5.7 M=6.2	鳥取県東部が被害を受けた。建物の倒壊68戸、同半壊515戸、湖山村では延長300メートルに渡り崖が崩れ、温泉にも異常が見られた。
昭和18年 9月10日	鳥取付近	M=7.2	鳥取市の被害が全体の約80パーセントに達した。 死者1,083人 家屋全壊7,485人 土木関係のほか交通網、通信網にも大きな被害を受けた。
昭和30年 6月23日	鳥取県西部	M=4.3 M=4.6 M=5.5	日野郡根雨町付近で石垣や橋の脚台が破損
昭和58年10月31日	鳥取県中部	M=6.2 M=5.9	負傷者13人。約200戸が断水(青谷町)。 住家一部破損689戸、非住家98戸、被害総額2億2,455万9千円
昭和60年 7月 2日	大山付近	M=4.9	群発地震
平成元年10月27日 11月 2日	鳥取県西部	M=5.3 M=5.4	被害総額1億円
平成 2年11月21日 11月23日 12月 1日	鳥取県西部	M=5.1 M=5.2 M=5.1	目立った被害は見られなかった。
平成 9年 9月 4日	鳥取県西部	M=4.6 M=5.1	一部断水が生じたり、屋根瓦の破損や墓石の倒壊が見られたが、目立った被害は見られなかった。

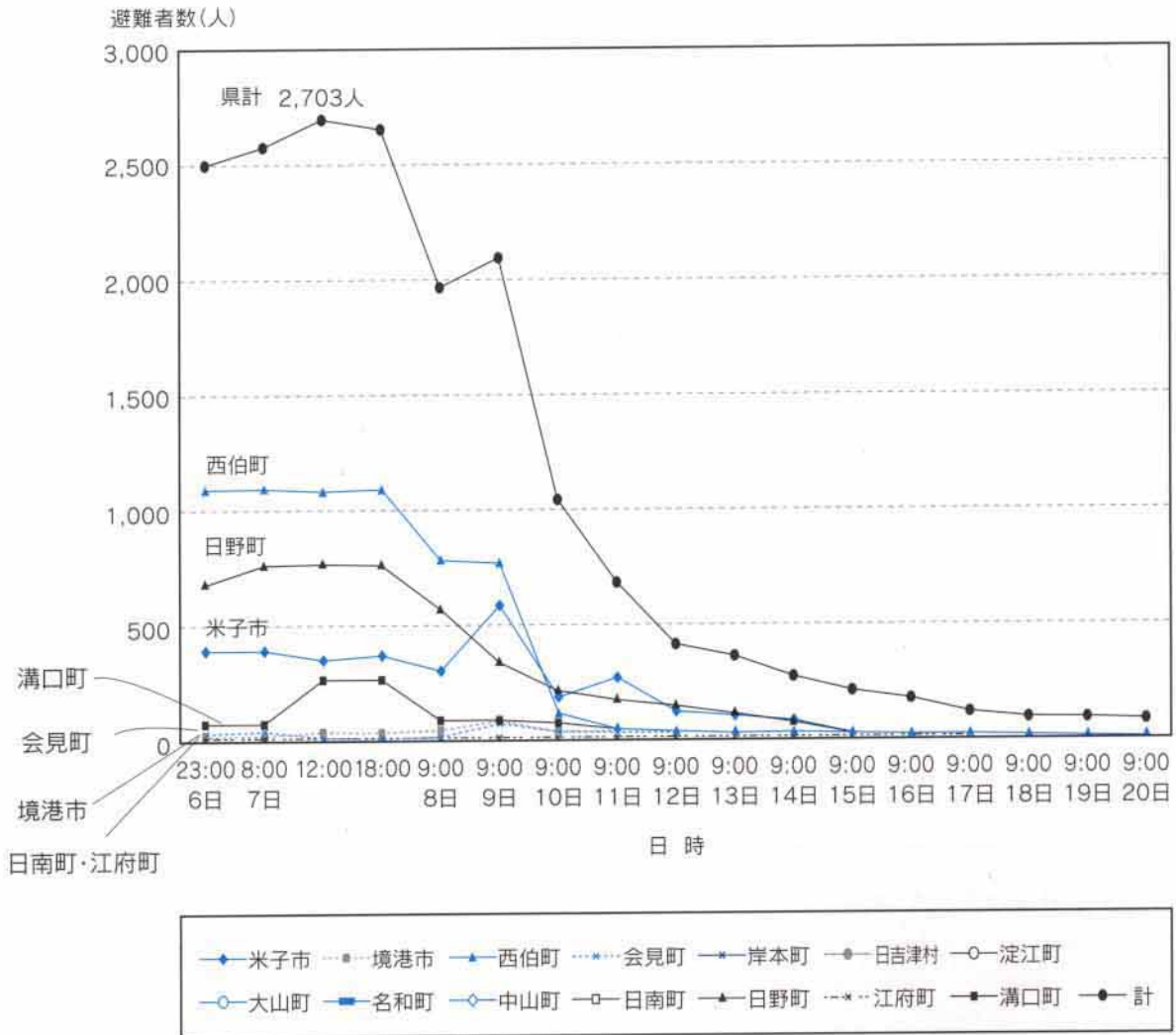


過去の地震の震源地 (過去100年間)



4 住民の避難状況

鳥取県西部地震における市町村別避難者の推移



日野町内の中学校に避難した人々

5

鳥取県西部地震発災からの対策等実施経過

10月 6日	13:30 13:40頃 14:29 14:40頃 18:00 19:00 22:35	鳥取県西部地震発生、災害対策本部設置 西部総合事務所で西部本部の立ち上げが始まる 陸上自衛隊第八普通科連隊へ災害派遣要請（県西部地域における人命救助活動、生活救助支援） 森総理大臣から知事に支援の電話 国土庁蓮実総括政務次官がヘリで急行、被災地視察後、政府の全面協力を表明 日野町根雨1区及び根雨2区で23世帯37名に対して避難勧告 米子市、西伯町、日野町に災害救助法を適用 その後、翌1時30分頃まで各市町村からの緊急要請を受け、即対応を指示		鳥取県西部地震災害対策本部
10月 7日	15:30 16:10～ 21:00	副国土庁長官ほか、国土庁調査団が被災地の視察 溝口町大坂地区で2世帯10名に対して避難勧告 自衛隊災害派遣要請（境港市竹内団地地域での排水溝の土砂撤去、西伯・会見・日野各町の損壊した独居高齢者宅等への防雨用シートの展張） 溝口町に災害救助法を適用		
10月 8日	11:33 13:30 14:25 20:40	溝口町父原地区で4世帯18名に対して避難勧告 自衛隊災害派遣要請（日野町での入浴支援） 自衛隊災害派遣要請（西伯町での崩壊土砂の除去） 境港市、会見町に災害救助法を適用		
10月 9日	11:32 12:00 23:30	自衛隊災害派遣要請（西伯町での県職員による緊急調査へのヘリコプター支援） 自衛隊災害派遣要請（溝口町での損壊した高齢者世帯家屋に対するシートの展張） 自衛隊災害派遣要請（西伯・日野町の損壊独居高齢者宅、身体障害者宅の防雨用シートの展張） 境港市に被災者生活再建支援法適用		
10月10日	12:00 13:00	宮内庁渡辺侍従長を通じ、天皇皇后両陛下から、被災者へのお見舞いと災害復旧関係者へのねぎらいのお言葉が届く 日野町本郷地区で10世帯40名7事業所に対して避難勧告 米子市、日野町に被災者生活再建支援法適用		
10月12日	14:10 15:10 15:46	米子市宗像で1世帯3名に対し避難勧告 自衛隊災害派遣要請（米子市での損壊した独居高齢者宅等への防雨用シートの展張） 米子市宗像で2世帯5名に対し避難勧告 鳥取県全域に被災者生活再建支援法適用		
10月13日	18:30	谷 農林水産大臣が災害対策本部来訪		
10月14日	14:10	米子市青木で2世帯8名に対し避難勧告		
10月15日		谷 農林水産大臣が被災地視察		
10月17日	16:00	参議院災害対策特別委員会調査団が被災地視察		
10月18日		鈴木消防庁長官が被災地視察		
10月20日	11:00	自治省 嶋津財政局長が被災地視察		
11月 2日		鳥取県西部地震災害復興本部設置		